

このページは、小・中学生に向けて梅光学院大学子ども学部子ども未来学科(地域共生ゼミ)の学生が作っています。

※イラスト 安森仁美さん、三浦由佳さん、山本亜沙美さん、友寄 柚さん

# しものせき キッズページ



しものせき おんせん かわたなおんせん みりよく  
「下関の温泉～川棚温泉の魅力～」



▲特別にホテルの露天風呂に足を入れさせてもらいました。ぽかぽかで、い～気持ち！

昔、川棚の沼に一匹の青龍が住

## 青龍伝説と松尾神社



下関市には、古くから地元で親しまれてきた温泉地や温泉施設が各地に数多くあります。温泉の質や効能は温泉ごとに違ってさまざまです。例えば、疲労回復や美肌効果(美人)などに効く温泉もあります。他にも、景色がきれいなところや、雰囲気の良いところなどがあり、家族や友達とゆったり楽しむことができます。

今回は、中でも歴史深い川棚温泉と、その川棚温泉にまつわる話を紹介します。

川棚温泉を有名にしたのが、江戸時代の長門長府藩第三代藩主・毛利綱元です。病気を治すために川棚温泉に浸かると、病がたちまち回復したことがきっかけとなり、1693(元禄6)年には、殿様専用の湯御殿湯やお泊まりどころの御茶屋が設けられました。これを機に、川棚温泉は殿様(毛利侯)の湯として広く知られるようになりました。

江戸時代の庶民は、今のように

## 毛利侯と川棚温泉



それ以降、温泉が二度と枯れることのないよう、松尾神社には青龍権現が祭られていると言われています。



自由な観光は許されていませんでした。寺や神社に参ることや、病気の治療湯治のための旅行ができただけでした。川棚温泉は庶民もたくさん来ていた、人気のある温泉町として発展してきたのです。

川棚温泉には、山頭火やコルトーのエピソードもあります。俳人・種田山頭火は、川棚温泉をこよなく愛した一人です。1932年に約100日間、川棚に滞在し、俳句を307句書いたとされています。有名な句に「花いばら この土とならうよ」という句があり、この地で一生を願ったそうです。

コルトーは世界的なフランスのピアニストです。1952(昭和27)年にコンサートのために来日して川棚に泊まった際、響灘に浮かぶ厚島を臨む美しい風景に感激しました。コルトーは厚島で一生を終えようと考えており、当時の村長に厚島を売ってほしいと頼んだそうです。

残念ながら、川棚で一生を終える願いは叶いませんでしたが、厚島は今でも別名「孤留島」と呼ばれ、多くの人に愛されています。

## 山頭火やコルトーが愛した川棚



3月号の編集記者(左から)渡邊由希さん、友寄 柚さん、檀 綾花さん



▲川棚温泉で「湧いてあふれる中にねている」と詠んだ山頭火。句碑が川棚の妙青寺にあります。



▲音楽会も開かれる川棚温泉交流センター。コルトーが泊まった宿は、ちょうどこの辺りに建っていました。